

職場体験 感想文コンクール2025

タイトル	みんなのために	事務局	147
学校名	新庄市立新庄中学校	氏名	三原 ^{あさひ} 朝陽

8月5日。私は希望と少しの緊張を胸に、仕事体験へと向かった。

たくさんの求人票の中から、私は「県立新庄病院」という最上地方唯一の県立病院を選んだ。仕事体験に行くためには採用面接で合格しなければならない。採用面接はプロの面接官と10分間受け答えをするというものだった。私は英語の塾に通っていて、外国人の方と面接することがあったので、それよりは緊張しなかったが、「面接官怖いかな。」とか「10分間も話せるかな。」とか不安だった。

採用面接には、無事合格することができた。今回の面接で学んだことがある。それは第一印象の大切さだ。私は面接官の方に良い印象を持ってもらえるよう、笑顔を意識して面接に臨んだ。面接チェックシートには面接官の方から「笑顔が良い。」と書かれていた。意識していたことを褒めてもらえて、とても嬉しく感じた。県立新庄病院ではマスクをつけなければならない。マスクをつけると表情が分かりにくいため、笑顔がもっと伝わるように頑張ろうと思った。

迎えた当日、病院に着くと担当の方が案内してくださった。まず、オリエンテーションをした。担当の方と看護師の方が県立新庄病院について詳しく説明をしてくださった。そこではいろいろな驚くことがあり、これから各部を見学するのがとても楽しみになった。

最初は看護部の見学だった。看護部に来てまず驚いたのは、入院している患者さんの名前が病室に書いていないことだった。名前のところタブレットのような機械になっていて、タッチしないと名前がわからないようになっていた。県立新庄病院では、個人情報を厳しく管理しているということが分かった。看護師の方が看護部の説明をしてくださった後、血圧を測らせてもらった。私は自分の血圧を測るだけでもなぜか緊張していた。血圧を測っている最中、看護師の方が血圧について説明してくださった。どのくらいが正常値なのか、どこを超えると高血圧になるのかなどを知ることができた。実技をしているうちに、いつの間にか緊張はほどけていた。その後、実際に患者さんの血圧を測らせてもらうことになった。患者さんの顔を見た途端、また緊張してしまった。そんな私を見て看護師さんが「大丈夫だよ。」と声をかけてくださった。そのおかげで無事に血圧を測り終えることができた。看護師さんは仕事体験に来た私にも、患者さんにも、同じような接し方をしてくださった。患者さんだけでなく、私にも何気ない優しさで緊張をほぐしてくれる看護師さんはとても素敵だった。

次は、リハビリを終えた患者さんの車いすを病室まで押して歩くことだった。車いすを押すのは初めてで、思っていたよりも大変だった。絶対にぶつけないよう、周りをよく見て慎重に押して歩いた。病室まで送り届けたとき、患者さんから笑顔で「ありがとう。」と言われ、温かい気持ちになり、私も笑顔になった。

その後、看護師の方にインタビューをさせていただいた。「心がけていることは何ですか？」と質問した際に、「患者さん重視です。患者さんの気持ちが暗くならないように声掛けをしたり、患者さんと目線を合わせたりしています。」と答えてくださったのが印象に残っている。私も緊張しているときや不安なときに声掛けをしてもらおうと、とても安心する。患者さんもやはり安心するのかなと思った。

午後は院内見学からはじまった。院内を歩いてみると、たくさんの部があり、特に手術室に驚いた。なんと手術室前室は、入室するための扉が二重になっていたのだ。これは外からの空気や細菌を防ぐためだった。実際に私が見ることができたのは前室までだったが、とても緊張感が伝わってきた。1階には、そんな緊張感を吹き飛ばしてくれるようなカフェと図書コーナーがあった。どんな人でも利用することができ、リラックスできる場所だった。パンとコーヒーの落ち着く香りがした。

外にはドクターヘリのヘリポートが新しく併設されていた。救急車だと山形の病院まで1時間かかるが、ドクターヘリだとわずか10分で搬送することができるそうだ。それにより、今までよりもたくさんの命が救われることだろう。新しく併設されていたのは、ヘリポートだけではなく、職員の方々が安心して働けるための保育所もあった。この保育所は、病院のすぐ隣にあり、職員の方々の出勤と一緒に預けることができる。この保育所ができたことで、より一層働きやすい環境になったと思う。

その後、リハビリテーション部、薬剤部、検査部を見学させていただいた。私が一番衝撃を受けたのは薬剤部だった。薬剤部に入った途端、とても多くの薬の量に目を奪われた。薬剤師の方は、このたくさんの薬からひとつひとつ取り出し、合わせたり、混ぜたりして、患者さんに合った薬を処方していた。光に弱い薬もあった。それらはアルミの袋に包まれていた。薬剤部で一番驚いたのは、薬を運ぶエレベーターだ。このエレベーターは1階の薬を処方するところに繋がっていて、速く簡単に薬を運べるよう工夫されていた。

県立新庄病院には患者さんだけではなく、職員の方々のためにもさまざまな工夫がされていた。そして、部が違っていても、みんなが「患者さんのため」という想いで働いていた。そして、「笑顔は伝染する」ということを学んだ。それは年齢なんて関係ない。病気も関係ない。どんな人でも笑顔は伝染するのだった。

私は、「働くこと」はお金のためが一番だと思っていた。お金があれば買いたいものも買えるし、食べたいものも食べることができて、生活が充実するからだ。けれど、今回の仕事体験を通して、人のためという想いが強くなった。誰かのために働いて、誰かの笑顔が見られたら、自分も幸せな気持ちになれる。「やってよかった。」と思える。

私はまだ将来の夢が決まってない。だけど、誰かのために働いて、誰かの笑顔が見られる仕事に就きたいと思う。そして、私がみんなの笑顔の源になりたい。